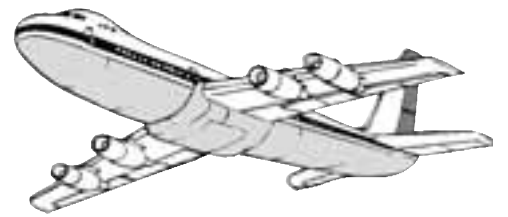




追分公民館で行われた出発式  
前列右から、畑山優大君(早中2年)、沼田裕太君(同)、藤原岳史君(同)、大橋祐翔君(同)、中田楓七さん(早中3年)、佐藤あづささん(同)、山岸由貴さん(添乗員)。  
後列右から、清水美穂さん(追中3年)、高橋唯さん(追中2年)、三浦可蓮さん(同)、立浪有紗さん(同)、佐々木瞳さん(早中2年)、佐々木麻美さん(同)、畑田正宏社会教育主事



飛行機の中の些細なできごとにも驚いていました。オーストラリアの人は、甘い物好きで大食漢だと感じているようでした。

ことばの違いは身振り手振りを使ったコミュニケーションで意思を伝え合い、学校訪問では、実際に授業に参加し地元の生徒と交流を深めました。ホームステイ先では、温かいもてなしに全員が大喜び。自分たちが好きな物を出してくれたり細かな心遣いに感激したそうです。

時間に対する感覚の違いも

実感し、ホテルの部屋には時計はなく日本のように時間どおりの生活はしてないとほとんどの参加者が感じました。

ホームステイ

先の家の時計は10分ほど時間がずれていたそうです。

しかし、現地の方は時間に縛られず、ゆったりとした生活が優しい性格の人に育てると思うようなった生徒もいます。

町の中でお寿司屋を見つけ、日本語でメニューが書かれていたのに驚き、日本人観光客が多いことを改めて知りました。

コアラ探索プログラムでは、野生のコアラと対面。年間400頭の野生のコアラが死んでいるが、交通事故によるケースが多いといえます。人

間が原因で亡くなっていることに生徒たちはショックを感じていました。

今回参加した全員が異口同音に、実際に体験しないと分からないことが多く、いろいろなことを感じ、学ぶことができました。この海外研修を支援していただいた方に感謝しています。



報告会を終え、表情が和らぐ生徒の皆さん